

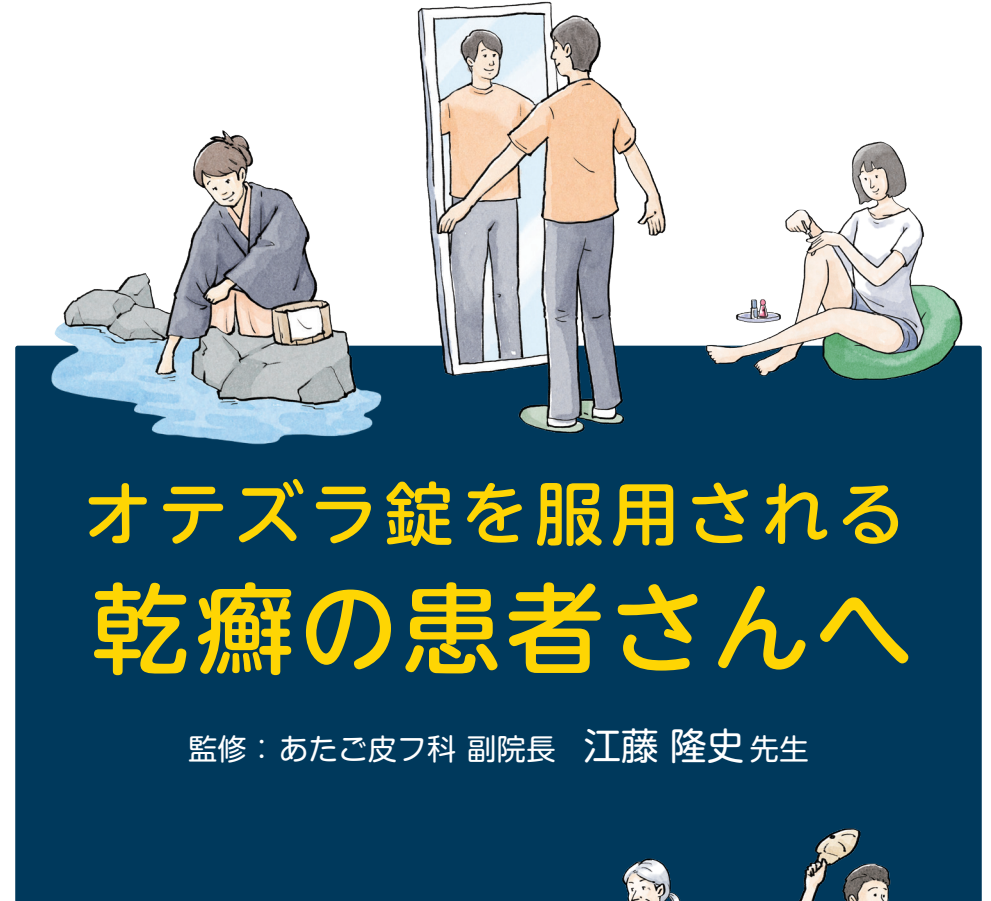
オテズラ錠について
知りたい方のための情報ウェブサイトです。



LINEで治療サポート



病・医院名

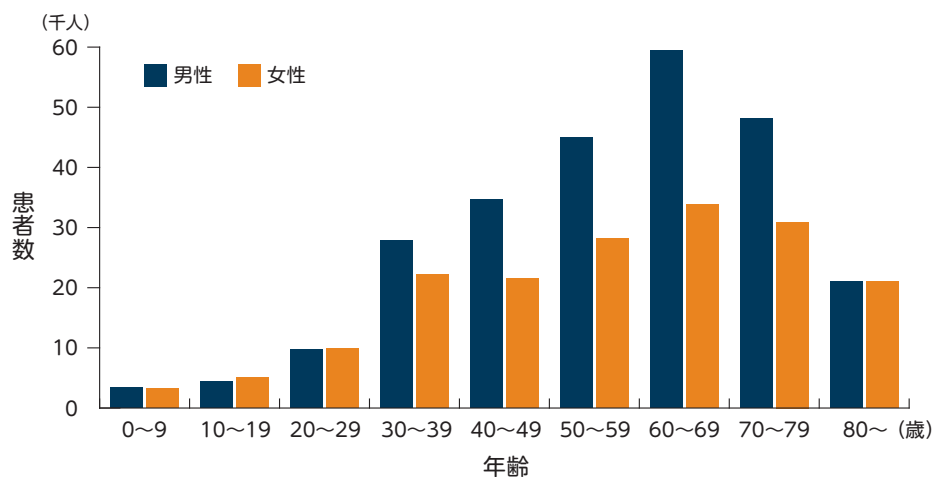


乾癬について

乾癬とは

乾癬は身体の中の免疫バランスの異常によっておこる、全身性の炎症性疾患です。日本の乾癬患者さんの数は40万人～50万人（1,000人に4～5人）と推計されています^{1,2)}。男女比はおおよそ2:1です（2009～2011年度日本乾癬学会調べ³⁾。発症年齢の平均は40歳弱で、20歳代と40～50歳代に発症のピークがあります。

日本の乾癬患者さんの性・年代別分布



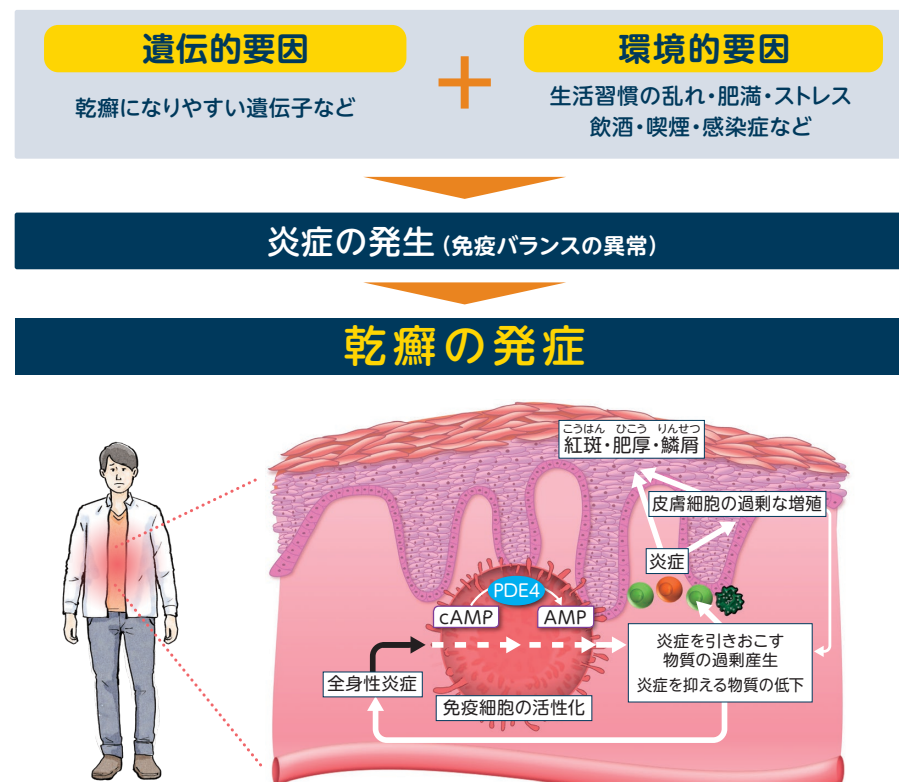
Kubota K et al. : BMJ Open. 5: e006450, 2015より作図

乾癬は決して人にうつることはありません。一方で、症状が出ていない部分でも、刺激を加えることで新しく症状が出たり、症状が広がることがあります。また、よくなったり悪くなったりをくり返すので、長期的な治療やケアが大切です。

- 1) Kubota K et al. : BMJ Open. 5: e006450, 2015
- 2) 照井正 他: 臨床医薬. 30: 279-285, 2014
- 3) Takahashi K et al. : J Dermatol. 38: 1125-1129, 2011

乾癬の原因

乾癬の発症原因ははっきりとわかっていません。現時点では、もともと乾癬になりやすい遺伝的な要因があり、そこにさまざまな環境的な要因が複雑に関与することによって、免疫バランスの異常がおこり、発症につながると考えられています。



ピーディーフォー (ホスホジエステラーゼ4): 身体の中の細胞に存在する酵素(タンパク質)で、cAMPという物質をAMPという物質に分解する役割があります。

cAMP: さまざまな刺激に反応して細胞内の情報伝達を仲介する物質の一つです。cAMPの量が減ると、身体の中で炎症を引きおこす物質の産生が多くなり、炎症が悪化することが報告されています。

AMP: cAMPが分解されることで生じる活性のない物質です。

乾癬の症状

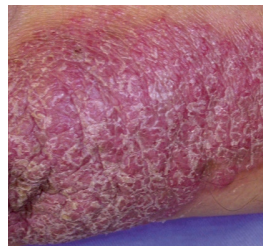
乾癬の症状

乾癬の典型的な皮膚症状として、^{こうはん}紅斑、^{ひこう}肥厚、^{りんせつ}鱗屑などがあります。



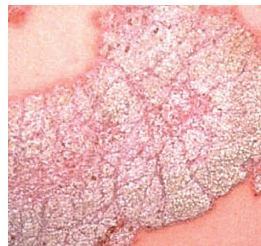
^{こうはん}紅斑

皮膚が炎症をおこして赤くなる



^{ひこう}肥厚

皮膚が炎症をおこして盛り上がる



^{りんせつ}鱗屑

皮膚表面に銀白色のかさぶたのようなものができる

皮膚症状は全身のうち、特に肘、ひざ、腰まわりなど、摩擦を受けやすい部位に多くみられます。頭部や頭皮、爪にも症状が出たり、これにかゆみを伴うこともあります。また、皮膚症状だけでなく、関節の痛み、腫れ、変形などの関節症状がみられる場合もあります。



乾癬の治療法

治療の種類

治療は大きく分けて、塗り薬、飲み薬、注射剤（生物学的製剤）の薬物療法3種類と、光線療法の合わせて4種類があります。

乾癬の治療は、患者さんの症状や治療目標、治療効果などを考慮して、4つの治療法を単独あるいは組み合わせて行います。



- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●ステロイド外用薬 ●ビタミン^{ディースリー}D₃外用薬 ●配合剤 | <ul style="list-style-type: none"> ●PDE4^{ピーディーイーフォー}阻害剤 ●レチノイド製剤 ●免疫抑制剤 | <ul style="list-style-type: none"> ●生物学的製剤 |
|---|---|---|



- PUVA^{プーヴァ}療法
- ナローバンドUVB^{ユーファイビー}療法、など

乾癬の治療法(つづき)

塗り薬

塗り薬は乾癬治療の基本になります。主に、**ステロイド外用薬**、**ビタミンD₃外用薬**、これらの**配合剤**があります。症状に合わせて、塗り薬以外の治療法と組み合わせることがあります。



ステロイド外用薬

- ◆ 炎症を抑えるお薬です。
- ◆ 長期間使用すると、皮膚が薄くなったり、毛細血管の拡張がみられたり、感染症をおこしやすくなる場合があります。

ビタミンD₃外用薬

- ◆ 皮膚の過剰な増殖を抑えるお薬です。

配合剤

- ◆ ステロイド外用薬とビタミンD₃外用薬を合わせたお薬です。2つの外用薬を合わせることでより効果的になります。

飲み薬

飲み薬には主に、**PDE4(ホスホジエステラーゼ4)阻害剤**、**レチノイド製剤**、**免疫抑制剤**の3種類があります。**オテズラ錠**は**PDE4阻害剤**です。症状に合わせて、飲み薬以外の治療法と組み合わせることがあります。



PDE4阻害剤

- ◆ 免疫バランスの乱れを整え、炎症を抑えるお薬です。
- ◆ 服用初期に吐き気や下痢、頭痛などがおこることがあります。
- ◆ 妊娠または妊娠している可能性のある方は服用できません。

レチノイド製剤

- ◆ 皮膚の過剰な増殖を抑えるお薬です。
- ◆ 肝障害や腎障害のある方は服用できません。
- ◆ 服用中に子供ができると、胎児に奇形が生じるおそれがあります。

免疫抑制剤

- ◆ 過剰な免疫機能を抑えるお薬です。
- ◆ お薬によっては血圧上昇や腎機能障害などがおこることがあるため、定期的に血圧測定、血液検査を行います。
- ◆ お薬によっては妊娠または妊娠している可能性のある方、授乳中の方は服用できません。

注射剤(生物学的製剤)

免疫機能にかかわり、炎症を引きおこす特定の物質の働きを抑えるお薬です。飲み薬や光線療法で十分な効果が得られない患者さんに使用されます。免疫機能を抑える作用が強いため、感染症にかかりやすくなる場合があります。



光線療法

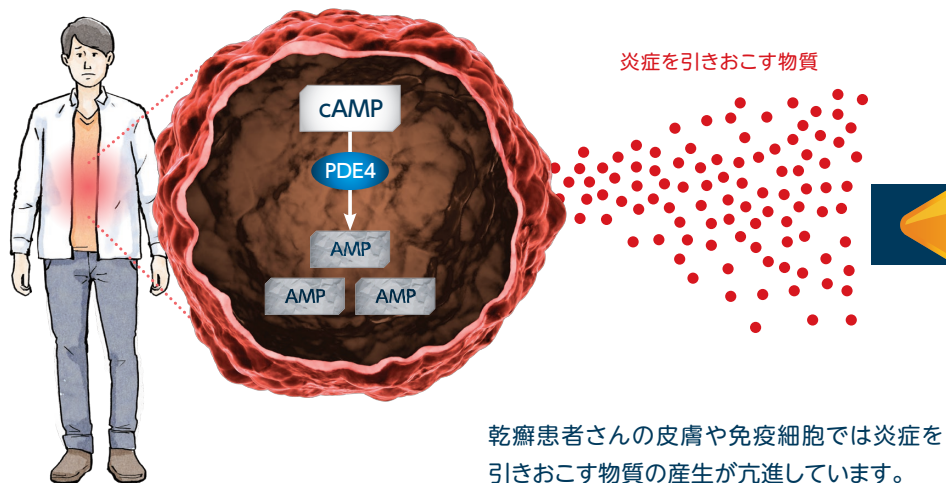
症状のある部位や全身に紫外線を照射することによって、過剰な免疫機能を抑える治療法です。乾癬治療では、**PUVA療法**^{※1}や**ナローバンドUVB療法**^{※2}などが行われます。塗り薬や一部の飲み薬、注射剤と組み合わせることがあります。なお、光線療法を受ける場合は、最初は1週間に1~2回程度の通院または入院による連日照射が必要になります。症状が落ち着いたら2~4週間ごとの照射でもコントロールできるようになります。

※1 PUV療法:光に対する感受性を高める薬を服用または外用した後、A波紫外線を照射する治療法
※2 ナローバンドUVB療法:波長311nm付近のきわめて狭い範囲のB波紫外線を照射する治療法

オテズラ錠が作用するしくみ

オテズラ錠とは

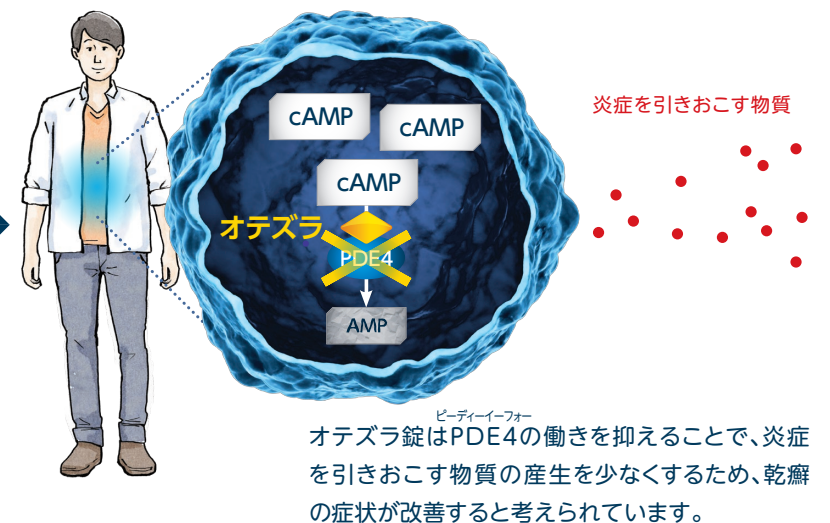
オテズラ錠は、^{ピーディーイーフォー}**PDE4(ホスホジエステラーゼ4)阻害剤**とよばれる新しいタイプの乾癬の飲み薬です。塗り薬で十分な効果が得られない患者さんや、関節症状がある患者さんに使われます。



^{ピーディーイーフォー}**PDE4(ホスホジエステラーゼ4)**: 身体の中の細胞に存在する酵素(タンパク質)で、cAMPという物質をAMPという物質に分解する役割があります。

オテズラ錠が作用するしくみ

^{ピーディーイーフォー}**PDE4**は身体の中の細胞に存在する酵素(タンパク質)で、**炎症を引き起こす物質の産生にかかわっています**。乾癬患者さんの皮膚や免疫細胞では、^{ピーディーイーフォー}**PDE4**が正常よりも多く存在しているため、免疫バランスの異常が生じています。そのため炎症がおり、乾癬の症状が現れていると考えられています。
^{ピーディーイーフォー}オテズラ錠は、**PDE4の働きを抑えることで、身体の中の乱れた免疫バランスを整え、炎症を抑えて、乾癬の症状を改善**します。



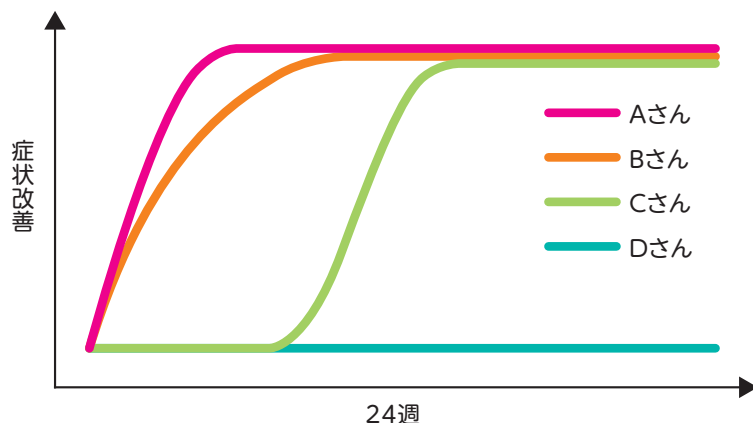
^{サイクリックエーエムピー}**cAMP**: さまざまな刺激に反応して細胞内の情報伝達を仲介する物質の一つです。cAMPの量が減ると、身体の中で炎症を引き起こす物質の産生が多くなり、炎症が悪化することが報告されています。
^{エーエムピー}**AMP**: cAMPが分解されることで生じる活性のない物質です。

オテズラ錠による症状改善と副作用

オテズラ錠による症状改善

オテズラ錠による症状の改善時期には**個人差**があります。患者さんによっては、**飲み始めから24週と、ゆっくり症状が改善してくる**場合があります。

オテズラ錠による症状改善のイメージ



オテズラ錠で改善が期待できる症状

皮膚の症状(頭皮など)

爪の症状

かゆみ

手指や足指、かかとなどの腫れ、
痛み、関節の変形などの症状

症状の改善を維持するためには、毎日きちんと服用を続けることが大切です。ご自身の判断でお薬を飲むのをやめたり、お薬を飲む回数を減らしたりしないでください。

オテズラ錠の副作用

オテズラ錠は、飲み始めの頃に**吐き気や下痢、頭痛**などの副作用がみられることがあります。吐き気や下痢がおこる場合、そのほとんどは飲み始めてから2週間以内に現れ、4週間以内におさまりますが、医師に相談をしたうえで、一時的にお薬を飲むのを中断することもあります。また、感染症や過敏症、重度の下痢が現れることがあります。

感染症

ウイルスや細菌などの微生物が体内に侵入することで引き起こされる病気です。風邪は最も身近な感染症の一つです。

過敏症

乾癬の症状とは別に、じんましんやかゆみなどの皮膚の症状や、息切れなどの呼吸器系の症状が急激に現れることがあります。

これらの症状をはじめ、服用中に気になる変化があったら、すみやかに医師・薬剤師にご相談ください。



オテズラ錠の飲み方

最初の2週間

最初の2週間は、2週間分のお薬が入っている「スターターパック」の表記に従って服用します。

オテズラ錠のスターターパック

オテズラ錠 10mg, 20mg, 30mg

服用の注意
初めの2週間分のお薬が入っています

初めの6日間はお薬の量を少しずつ増やしていきます。

- 記載された服用日を守って正しく服用してください。
- 最初の日は、朝1回だけで、夕方は休薬します。
- 2日目からは、朝・夕、1日2錠です。
- 1錠には服用しないです。
- コップの水を飲むまで包装を開かないでください。錠剤をくんだり、割ったり、かんで飲まないでください。

飲み忘れや飲み間違えてしまったら

- 服用を忘れた場合、気がついた時に飲んでください。ただし、次の服用する時間が近い場合には飲み忘れた錠剤は飲みます。次に飲む錠剤を正しい時間飲んでください。
- 服用する時間や、錠剤の数、服用回数などを間違えた時には、医師又は薬剤師にご相談ください。

服用初期に発現する副作用

- 服用を開始した初期には、悪心、嘔吐、下痢などの副作用が発現することがあります。
- このような症状や、そのほかにも体に異常を感じた場合には速やかに医師又は薬剤師にご相談ください。

保管のしかた

- 室温で保存します。
- このカード型の錠剤シートは、すべての錠剤を飲み終えるまで、この台紙より取りはずさないでください。

1週目 朝 夕

1日目	10mg	10mg
2日目	10mg	10mg
3日目	10mg	20mg
4日目	10mg	20mg
5日目	20mg	30mg
6日目	30mg	30mg
7日目	30mg	30mg

2週目 朝 夕

8日目	30mg	30mg
9日目	30mg	30mg
10日目	30mg	30mg
11日目	30mg	30mg
12日目	30mg	30mg
13日目	30mg	30mg
14日目	30mg	30mg

1回1錠を正しく服用してください。

- ① 最初の日は、10mgを朝に1回服用します。
- ② 2日目から6日目までは、毎日10mgずつお薬の量を増やしなが、1日2回(朝・夕)服用します。少しずつお薬の量を増やすことで、飲み始めの頃におこりやすい、吐き気や下痢、頭痛などの発現を抑えます。
- ③ 6日目以降は、1回30mgを1日2回(朝・夕)服用します。

3週目以降

1回30mgを1日2回(朝・夕)服用します。

オテズラ錠は、食事の前でも後でも、どのタイミングで服用してもかまいませんので、決められた回数を毎日忘れず服用してください。

オテズラ錠による治療前の注意点

治療前に確認すること

患者さんの中にはオテズラ錠の治療が受けられない方、または治療に際し特に注意が必要な方がいらっしゃいます。治療を始める前に、下記の項目を必ず確認してください。

オテズラ錠による治療が受けられない方

- ◎ 以前にオテズラ錠を飲んで、かゆみや発疹などのアレルギー反応が出たことがある方
- ◎ 妊娠または妊娠している可能性がある女性の方

オテズラ錠の治療に際し特に注意が必要な方

- ◎ 重い腎機能障害がある方
- ◎ 感染症(風邪など)にかかっている、またはその疑いがある方、過去に再発性感染症(ヘルペスなど)にかかったことがある方
- ◎ 高齢の方
- ◎ 妊娠可能な女性の方(服用時には避妊が必要です)
- ◎ 授乳中の女性の方

※上記のいずれかに当てはまる場合は、オテズラ錠による治療を始められる前に、必ず医師または薬剤師にお伝えください。

オテズラ錠の飲み方に関する注意点

飲み方の注意点

お薬はコップ1杯程度のお水と一緒に飲んでください。砕いたり、割ったり、噛んだりして服用しないでください。



飲み忘れたときの注意点

もし飲み忘れてしまったら、気がついたときに飲んでください。ただし、次の服用時間との間が短いときは、飲み忘れた分は飲まずに、次から正しい時間に飲むようにしてください。お薬の数や回数などを間違えてしまった場合は、すぐに医師または薬剤師に相談してください。

飲み忘れを防ぐ工夫

飲み忘れを防ぐために、お薬は目の届くところに保管しましょう。毎日の生活習慣と結び付けておくのも一つの方法です（例えば、朝・晩の食事の後に服用する、など）。



その他医師・薬剤師に相談すべきこと

オテズラ錠以外のお薬を服用している場合

お薬の中には、オテズラ錠と一緒に飲むことで、オテズラ錠の効果が出にくくなるものがあります。乾癬以外で治療中の病気や服用中のお薬がある場合は、必ず医師または薬剤師にお伝えください。



今までと違う気分の変化がみられた場合

海外ではオテズラ錠の治療中にうつ病になったり自殺を考えたりした方が報告されています。治療中に以前に比べ落ち込むことが増えたり意欲がわかなくなるなどの気分の変化がみられた場合は、医師・薬剤師にご相談ください。

その他治療中に気になることがある場合

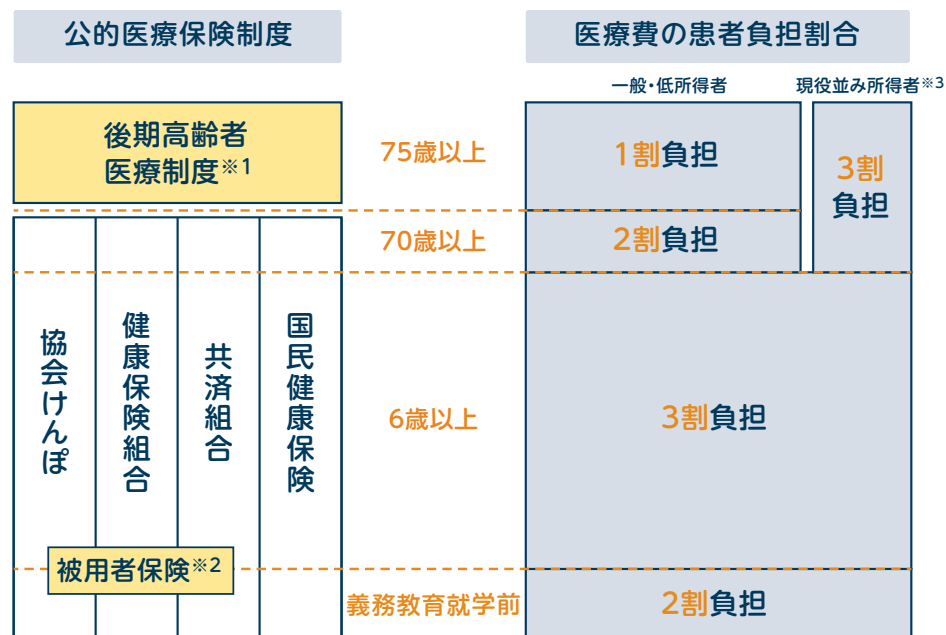
ここに紹介した以外のことでも気になることや心配なことがあれば、すぐに医師・薬剤師にご相談ください。



オテズラ錠のお薬代の目安

年齢や所得でのお薬代の違い

日本では、「国民皆保険制度」により国民全員が何らかの公的医療保険に加入しています(会社員など民間企業に勤める人は健康保険組合や協会けんぽ、公務員なら共済組合、など)。医療費は年齢や所得によって自己負担割合が変わります。



※1 75歳になった方は、それまで加入していた医療保険から、自動的に後期高齢者医療制度の被保険者になります。

※2 会社員や公務員など、雇用されている人とその扶養家族が加入します。

※3 現役世代の平均的な課税所得(年145万円)以上の課税所得を有する人が該当します。

実際にオテズラ錠にかかるお薬代は?

お薬代のみで見ると、例えば60歳の患者さんでは、患者負担割合が3割のため、最初の2週間(スターターパック使用時)で6,831円、3週目以降は毎月16,632円が目安となります。

オテズラ錠のお薬代の目安

時期	飲み方	日数	薬剤費	薬剤費の窓口負担額		
				3割	2割	1割
最初の2週間	スターターパック	14日分	22,770円	6,831円	4,554円	2,277円
3週目以降	30mg 1日2回	28日分 (4週間分)	55,440円	16,632円	11,088円	5,544円

令和元年10月現在のオテズラ錠の薬価をもとに計算

注1) 同時にほかの薬剤を処方されている場合などで、実際の負担額と異なるケースがあります。

注2) 「付加給付」や「医療費控除」など、自己負担額が大きい場合の負担を軽減するための医療費のサポート制度を利用することにより、実際の負担額と異なるケースがあります。

